

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立田原西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 28 人

② 算数 28 人

③ 理科 29 人

5 留意事項

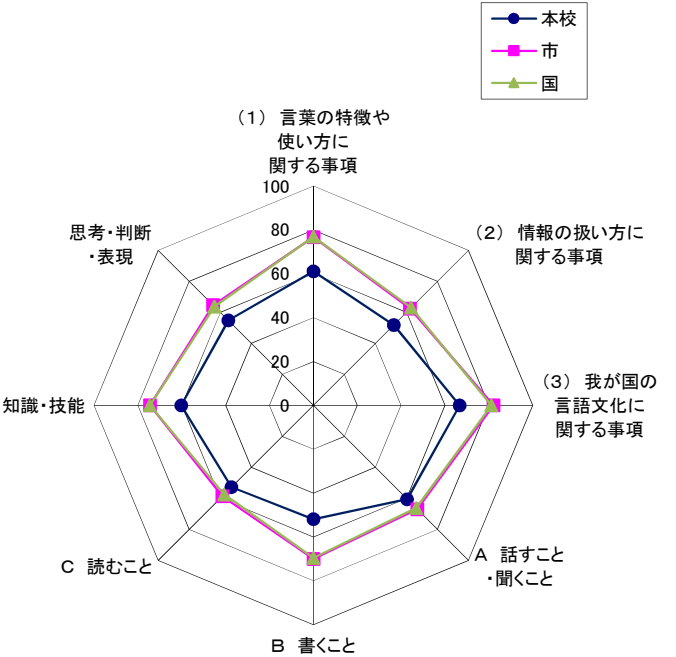
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	61.1	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	51.9	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	66.7	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	60.5	67.0	66.3
	B 書くこと	51.9	70.0	69.5
	C 読むこと	52.8	58.6	57.5
観点	知識・技能	60.2	74.5	74.5
	思考・判断・表現	54.8	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

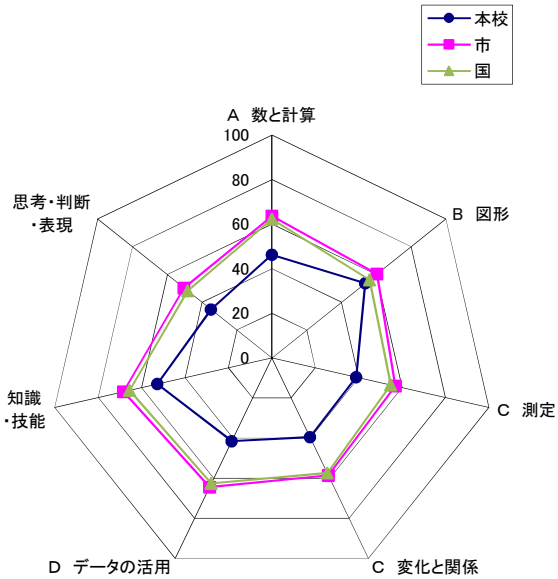
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均よりも低い。 ●文を正しく読み取り、同音異義語を正しく使う設問の正答率が低く、課題が見られる。	・漢字の定着に向けた指導を継続する。漢字指導においては、熟語調べなどに関連させて指導を行う。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、全国平均よりも低い。 ●情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題が見られる。	・自分の考えを整理する際、思考ツールやICTを活用することで、情報と情報との関係を視覚的に捉えることができるよう思考ツールやICTを活用していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国平均よりも低い。 ●時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる設問の正答率が低く、課題が見られる。	・言葉は時間の経過とともに変化するという点に関心がもてるよう、古典的な文章に触れる機会を増やす。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均よりも低い。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかを見る設問は比較的よくできていた。 ●目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することが身に付いていない。	・話し合う場の設定だけでなく、教師や友達の発表を「聞き方」のポイントを明確にしながらか聞く活動を繰り返し設定するなど、指導を行っていく。 ・話の内容が明確になるように、スピーチメモを作ったり、目的に応じて資料を使ったりする活動を行っていく。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均よりも低い。 ●目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られる。	・教材文の中の事実と感想を区別させたり、筆者の意図を読み取らせたりする活動を丁寧に行うとともに、文章を書く際には、意図や目的を明確にさせ、相手を意識させながら書くように指導していく。 ・学年の発達段階に応じて、学習のまとめ、振り返りを記述する取組を継続して行い、自分の考えをまとめ、書くことの習慣化を図っていく。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均よりも低い。 ●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題が見られる。	・語彙の獲得のために、朝の学習の時間で語彙の拡充ができるような問題を扱ったり、週に2回ある「朝の読書タイム」で学年の実態に応じた様々な分野の図書を読んだりできるよう指導する。 ・説明文を読む際には複数の文章や図表などを結び付けて情報を整理し、内容を捉え、考えをまとめられるよう指導していく。

宇都宮市立田原西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	46.3	63.6	62.3
	B 図形	53.7	60.4	56.2
	C 測定	38.9	56.9	54.8
	C 変化と関係	39.5	58.6	57.5
	D データの活用	41.5	64.4	62.6
観点	知識・技能	52.7	68.3	65.5
	思考・判断・表現	34.9	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

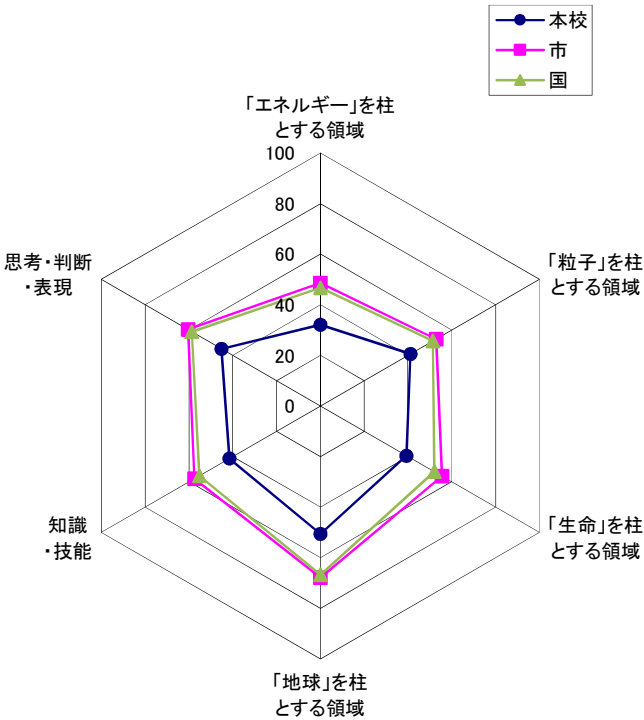
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる設問の正答率が低く、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・図や具体的なものを活用して、数の仕組みを視覚的・体感的に捉えられるようにし、理解の定着を図っていく。 ・既習事項と関連付けながら、図や具体物を繰り返し扱う活動を行い、学年を越えて数の構造を整理できるようにしていく。
B 図形	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる設問の正答率が高い。 ○基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる設問の正答率は高く、図形の面積の求め方の理解ができています。 ●平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる設問の正答率が低く、課題が見られる。	・三角定規や分度器を用いた具体的な操作活動を多く取り入れることで、角の大きさの感覚を養い、図形の性質の理解を促していく。 ・操作活動を通して得た感覚を、図や言葉で表現させる場面を設け、学習内容を自分の言葉で整理できるようにしていく。
C 測定	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる設問の正答率が低く、課題が見られる。	・既習事項についても授業の中で復習する機会を設け、学習内容を関連付けながら理解を定着させていく。 ・重さの学習に限らず、数直線を日常的に扱うことで、数量の関係を直感的に捉える力を育てていく。
C 変化と関係	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる設問の正答率が低く、課題が見られる。	・生活に繋がるような身近な題材を取り入れて授業づくりを行い、学習した知識や技能を実生活の中で活用できるようにしていく。
D データの活用	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる設問の正答率が低く、課題が見られる。	・身近なデータを用いた表の読み取り活動に繰り返し取り組ませ、表全体を見通して考える力を養っていく。 ・グラフや表の学習においては、着目すべき部分を明確にさせながら説明する活動を取り入れ、一人一台端末を活用して考えを共有するなど、指導の工夫を凝らしていく。

宇都宮市立田原西小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	32.1	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	41.1	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	39.3	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	50.6	67.9	66.7
観点	知識・技能	41.5	57.5	55.3
	思考・判断・表現	45.2	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○身の回りの金属について、電気を通す物・磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題の正答率は、全国とほぼ同じである。 ●電気回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題では、課題が見られる。	・磁石や回路は身近にあり利用することが多いため知識として定着を図ることができている。授業において身近なものを想起させながら今後も知識の定着を図る。 ・回路図をかく際には、電流の流れを意識させたり、様々な回路図の問題に取り組んだりすることで、理解を深めさせる。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる問題では、課題が見られる。	・水の状態変化については様々な単元を通して、折に触れ取り扱い知識の定着を図る。 ・目に見ることができない事象について図示したり、映像で確認をしたりすることによって、理解の定着を図る。 ・スマイルネクストドリルなどを用いて、理科に関する基礎・基本の知識の定着が図れるようにしていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる問題の正答率は、全国を2.3ポイント上回っている。 ●ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる問題では、課題が見られる。	・魚から植物、ヒトの誕生など関連をもった単元を通して、既習事項を想起させることで知識の定着を図る。 ・授業で行った実験の結果を知識として定着することができるので、得た知識を活用して考える場面を意図的に設ける。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかをみる問題の正答率は、全国とほぼ同じである。 ●赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる問題では課題が見られる。	・普段の授業において、キーワードを示しながら自分の言葉で書くことができるようにする。 ・実験内容と生活場面を関連させるような課題を設定し、実際に実験を行い、知識の定着を図るとともに理解を深められるようにする。

宇都宮市立田原西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の質問に対する肯定的回答が全国の平均と同程度である。今後も、人権意識を高める指導を心掛けていく。

○「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、分からないことがあった時に、すぐ調べることができるか。」の質問に対しての肯定的回答が全国平均より3.6ポイント上回っている。今後も1人1台端末を活用した学習の充実を図っていく。

●「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」の質問に対する肯定的回答が国の平均を下回っている。今後の授業において、児童の身近な話題を取り上げ、意欲的に学習に取り組めるように授業を展開していく。

●「自分には、よいところがあると思いますか」の質問では、肯定的回答が国の平均より下回っている。普段から教師が児童に対して一人一人のよさを認め、自己肯定感を高めることができるような声掛けを意識的に行っていきたい。

宇都宮市立田原西小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自分の考えを書いたり話したりして言語化する力の育成と、友達のをよく聞き、自分の考えと比べて考える力の育成	・授業の中で、自分の考えを文章で記述する時間を十分に取、友達と考えを交流することで考えを広げたり深めたりできるようにする。	・どの教科でも記述式問題の正答率が低く、市の平均を下回っている。 ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という問いに対する肯定的割合は高く、8割を超えている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・目的に応じて必要な情報を見付けたり、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることに課題が見られる。	全教科において、自分の考えを書いてから話す、話し合いをしてから自分の考えを書く等、話したり聞いたりすることと書くことの一体化を図る。	・授業の中で、自分の考えを文章で記述する時間を取ってから話し合ったり、話し合ってから自分の考えをまとめる時間を設けたりする。 ・話し合いの際に、「例えば」「なぜ」など学びを深めるキーワードを示す。